

令和2年度 第2回 沖縄観光2次交通の利便性向上に向けた検討委員会

意見交換における事務局議題案

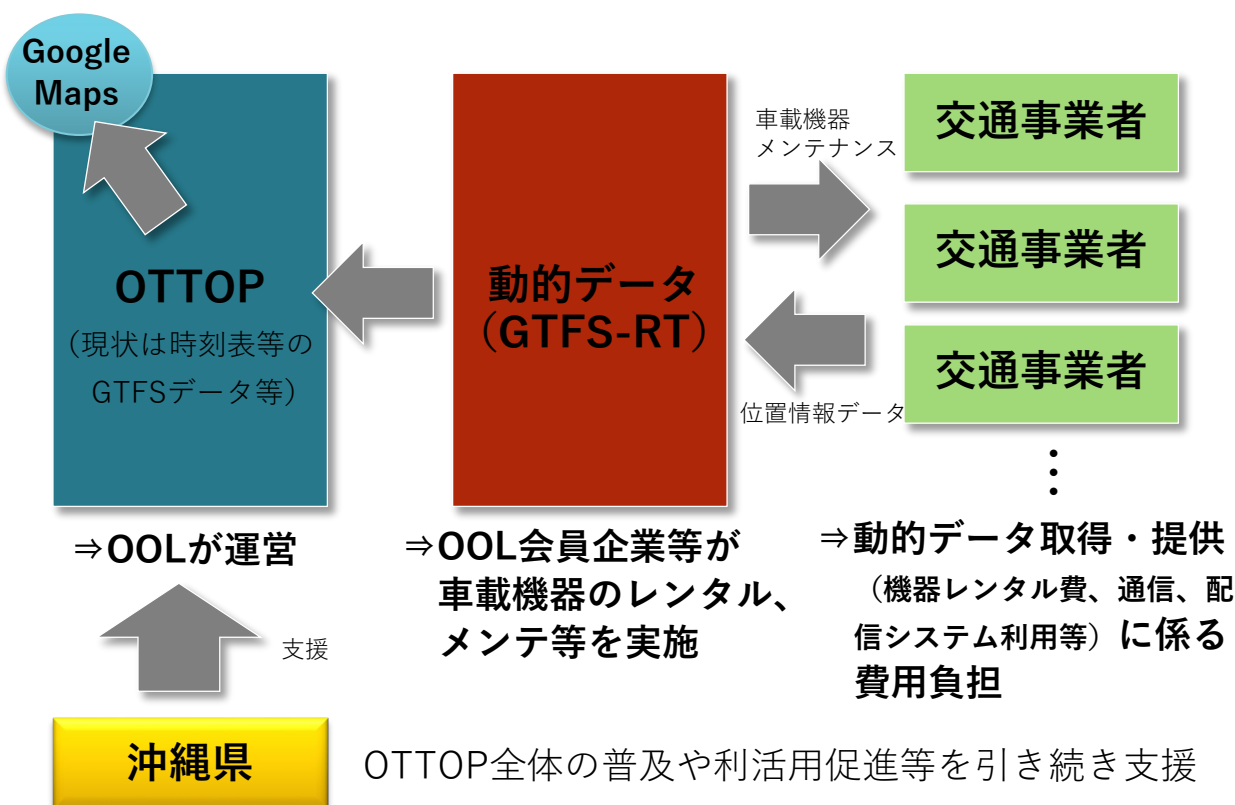
令和3年1月12日

1. 動的データ取得・オープンデータ環境の継続に向けて

(1) 基本方針（当初の基本的な考え方）

- ◆時刻表等の静的データのオープンデータ環境の整備・継続（維持・運営）は補助事業者である「一般社団法人沖縄オープンラボトリ（OOL）」において実施
⇒平成30年度、令和元年度の事業を経て、今年度よりOOLによりOTTOP（Okinawa Transit Tourism OpenData Platform）の運営を開始
- ◆動的データ（遅延情報含む検索）については、次年度以降は交通事業者がランニングコスト（メンテナンス費、通信費等）を負担することを念頭に今年度実証を実施

【動的データ取得・オープンデータ環境の継続のスキーム（イメージ）】



- ①車載機器はOOLの会員企業等が交通事業者へレンタル
- ②取得データ（位置情報等）はバス⇒OOL会員企業等⇒OTTOPにおいてGTFS-RT形式でオープンデータ化。GoogleへはOOLよりフィード
- ③車載機器のメンテナンス等はOOL会員企業等が実施
- ④交通事業者は、車載機器レンタル、通信、配信システム利用等かかる費用、およびデータ（GTFS-RT）の作成、メンテナンス等に係る費用をOOL会員企業等へ支払う
※コストは検討中であるが、台・月あたり、5,000円から10,000円程度を見込む（46台で計算すると年間276万円から552万円程度）
- ⑤沖縄県はOTTOPの構築を補助した立場として、OTTOP全体の普及や利活用促進等を引き続き支援

1. 動的データ取得・オープンデータ環境の継続に向けて

(2) 外部環境の変化を踏まえた継続方法

- ◆新型コロナウイルス感染症の影響による観光客、利用者の大幅な減少により、公共交通事業者は極めて厳しい状況にある。

⇒新型コロナの収束、需要回復の見通しが不透明な状況下で本取組をどのように継続するか？

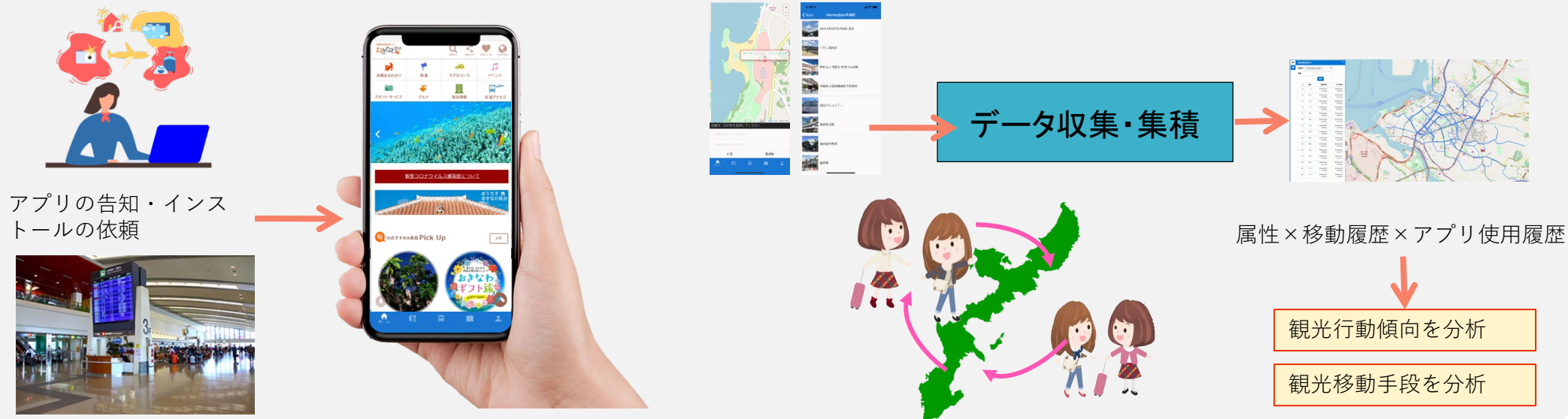
- ・次年度、6月頃までは交通事業者からの費用負担なく実証を継続することとしたいが、その後は？
- ・上記を踏まえた継続に向けたよい方法や、他地域でうまく継続している事例はないか？

など

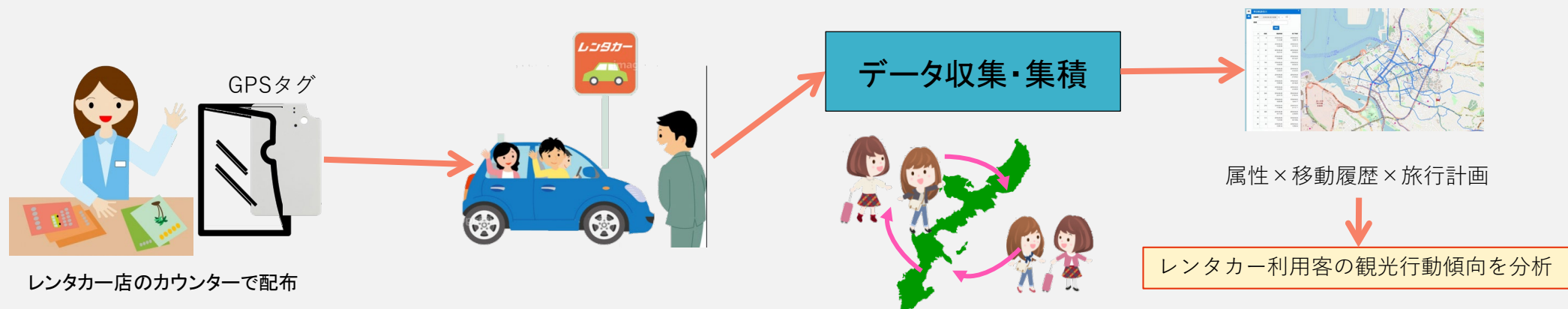
2. 観光客の動態データの分析、活用方法について

(1) 動態データの取得概要

【①おきなわ物語アプリによる動態データ取得】



【②レンタカーGPSによる動態データの取得】



2. 観光客の動態データの分析、活用方法について

(2) 分析項目と活用方法 (イメージ)

【分析項目】

①立寄り分析

⇒GPSのプロットのメッシュごとの集計
⇒プロットベース、サンプル(人・台・貸渡)ベース
⇒スポットごと、エリアごと
⇒属性別(性別・年代・居住地)、時間帯別、曜日別 など

②滞在分析

⇒スポットごと、エリアごと滞在時間
⇒宿泊場所の分析
⇒属性別(性別・年代・居住地)、時間帯別、曜日別 など

③経路分析

⇒GPSのプロットによりおおまかな観光ルート of 把握
⇒属性別(性別・年代・居住地)、時間帯別、曜日別 など

④周遊分析

⇒スポット、エリア間の周遊パターン把握
⇒属性別(性別・年代・居住地)、時間帯別、曜日別 など

【活用方法 (イメージ)】

・観光振興に係る基礎的データの把握
⇒立ち寄り箇所、平均滞在時間

・観光・交通拠点の検討への活用

・今まで顕在していなかった観光資源の発掘

・周遊促進施策、モデルルート等の検討・開発への活用

・特定の市町村、特定のスポットに立ち寄ったデータを抽出することで、市町村や観光施設、ホテル等の観光マーケティングへの活用
など

2. 観光客の動態データの分析、活用方法について

(3) オープンデータの取組との連携

- ◆前ページの①から③に係る集計表、図化結果等については、OTTOP上で公開することを検討（④については代表的な分析結果）
- ◆より詳細な分析ニーズへの対応方法（誰が、どのように、有償／無償で、等）は、今年度から次年度にかけて検討・構築

・ 前ページの分析項目、活用方法（イメージ）、上記のオープンデータの取組との連携等に関するご意見、ご助言など

3. オープンデータおよびOTTOPの利活用促進について

- ・ オープンデータ、OTTOPの利活用促進、OTTOPの維持・運営など
事業全般に関するご意見・ご助言など